



授業をしていて思ったことはありませんか？

授業中は理解できている感じなのに、テストでは点数がとれない…。なんでだろう？

やればできるはずなのに、もったいない…。

さっきまでがんばっていたのに、集中力切れちゃったな！

取りかかりが遅い！

グループ学習にしたら問題解いてるよ！

個別の児童生徒の実態把握と手立て

配慮を要する児童生徒に向けて

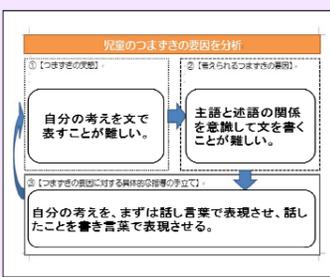
家庭教育支援アドバイザー(AD)の活用

個別の指導計画の作成と活用

単元等	実態・課題(★)・取組(O)	子供の発容	課題
国語科(1学期)「あいうえおのうた」	★文字への関心が薄い。 ○音節と文字が対応するように、文字と●の記号を示し、手を叩いて音節一つ一つを意識させる。	・文字と音とを結びつけられるようになった。 ・その後の特長音節も、手を叩きながら確認するようになった。	・読めない文字が多く、読むことへの苦手意識は強い。
「あめです」	★文字を目で追うことが難しい。 ○文字を指で押さながら聞いたり読んだりさせる。	・読む箇所を指で押さえ、遅れないように目で追うことはできた。	・みんなの速さで読むことはできない。一文字ずつでないとも読めない。

個の実態から、どのような手立てや支援が必要かを考えます。取組後、個の変容や課題から、更なる手立てや支援を考えます。また、この情報や取組について、教職員で共通認識を持つ場を設定しています。

児童生徒のつまずきの要因分析



具体的な指導の手立ての前に、つまずきの実態や考えられるつまずきの要因について教職員で考えます。つまずきの要因を考えることでより、具体的な指導の手立てを考えることができます。

【教職員に向けて】
・授業参観から、児童生徒の実態の把握
・個々の児童生徒に対する教職員への助言
・スクールカウンセラー連絡会への参加、助言
【保護者等に向けて】
・保護者等と面談、助言
・家庭訪問

毎週の生徒指導連絡会、校内研修会のみならず、日々の生徒指導や特別な配慮を要する児童生徒への対応についてアドバイスをいただいています。



家庭学習の充実「佐伯、家庭学習のススメ」
家庭学習ステップアップ週間「さいきっ子カード」

自ら学ぶ

家庭学習習慣

家庭学習の習慣は、生活習慣でもあります。自分の生活リズムの中で時間を決めて学習するよう指導しています。毎日決まった時間を「必ず机に向かう習慣」として位置付けさせています。

着ベル・挨拶・返事

ベルが鳴る前に着席することや授業開始・終了時の挨拶返事「はいっ!!」を小中9年間の共通取組とすることを確認して、児童生徒に意識させています。

家庭学習の時間

家庭学習の時間のめやすを設定し、児童生徒に意識させて取り組んでいます。
・小学校「各学年×10分(+10分)」
・中学校「自分から進んで学習する時間を1時間以上」に取り組もう。

3校合同での取組



つまずきの要因分析

研究授業では、児童生徒のつまずきの要因分析を事前に協議し、指導案に記載しています。また、授業後に支援は適切であったかを協議し、次への指導に活かしています。

かかわり合いのある授業の推進

「かかわり合い」では、「IN」と「OUT」を意識したかかわり合いを目指しています。「さいきっ子授業モデル」より抜粋



学習規律の指導の統一

3校が共通して①時間を守る、②授業前後の挨拶、③「聴くこと」「話すこと」(うめのかさ)「話すこと」(こめのかさ)の指導に取り組んでいます。



各校の取組

佐伯中
かかわり合い
友和小
言語活動の充実
津田小
ICTの活用

子どもたちの変容も見取ることができました！

以前は・・・
・授業態度は真面目である。
・宿題も忘れず提出する。
・書き間違いが多い。
・記述問題が空白なことが多い。
・文章や話が長く目的に合っていない。
・言葉が出てきにくい。

現在は・・・
・授業中に、話型や既習の掲示を自分から見て活用しようとするようになった。
・授業中に考えをまとめて説明できる場面が増えてきた。

昨年度 算数3学期末テスト結果
知識・技能 92点
思考・判断・表現 56点

本年度 算数1学期末テスト結果
知識・技能 90点
思考・判断・表現 76点

話にまとまりがなくて、忙しい生活の中で聞き流してしてしまうこともありました。

みんなの前で話せるようになり、クラスのグループリーダーを務めることができました。嬉しいです。

教務部会

研究部会

生徒指導部会

特別支援教育部会

通級指導についての研修

友和小学校で実施した「通級の指導について」の校内研修に参加し、指導内容・方法について理解を深めました。

巡回相談

対象児童生徒を中心として、特別支援教育アドバイザーによる巡回相談を定期的に行い、指導助言を担任に伝える会を設定し、日々の取組に活かしています。

児童生徒の情報共有

特別な支援を要する児童生徒について、3校で情報共有を行っています。実態や支援方法について交流したり、別の支援方法について検討したりしています。進学に向けて、6年生児童についての連携も図るようになっています。

自立活動の内容や指導について研修

自立活動についての研修を行い、指導方法の工夫や改善について検討したり、使っている教材を紹介し合ったりしています。

★各校の授業研究に、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターが参加して研修を実施しています。

あいさつ運動



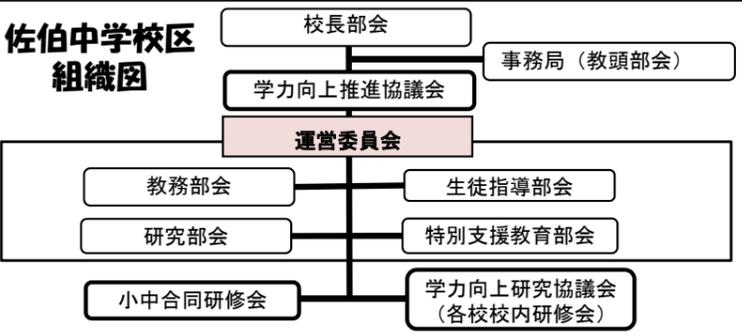
清掃活動



「あいさつ運動」と「清掃活動」は3校が共通して取り組んでいます。「あいさつ運動」は、児童生徒同士や、地域とのつながりを大切にして、行ってきます。「清掃活動」は縦割り班で行っています。上級生はリーダーとして、掃除の仕方を教えたり指示を出したりします。下級生は上級生から学び、縦のつながりを深めています。

つながりを深めるデー

小学校6年生が中学校へ授業体験に来た際に、中学校2年生が「小学生をお世話し隊！」としてボランティア活動を行いました。今年度は、中学2年と小学6年でペアを作り、メッセージや質問等を、手紙やビデオレターで交換し合っています。交流活動を通して、中学生は思いやりの気持ちと態度を育み、小学生は中学校生活への不安を解消すると共に、中学生への憧れをもつことができました。



教職員全員参加をめざした取組



推進のための3つのポイント！！
・チーム佐伯中学校区！としての取組
教職員全員参加の実践推進
・スパイラルな取組
個の実態から手立てを考え取り組みます。取組を振り返り、更なる手立てを考えます。
・学校教育活動全体で取り組む児童生徒の成長学習活動で！生活活動で！家庭で！